

## 三河商人道

PART  
168

(有)石工房 伴

代表取締役

伴 久義 君

青年部とは  
人とつながれる場所

今回取材させて頂いたのは有限会社石工房伴、代表取締役の伴久義さん。墓石などの石材にサンドブラストという機械を使い文字などを彫る字彫り屋として日々社業に勤んでおられます。お邪魔した職場には作業途中の墓石などが所狭しと並べられていましたが、どれも熟練された繊細な技術が必要とされる様なものばかりで思わず見入ってしまいました。

会社の設立は平成12年。中学卒業と同時に石材加工の学校に1年間通いましたが、その後は一旦石から離れて飲食店など十数種類のお仕事を渡り歩いたそうです。今の自分があるのはそこでの人生経験や出会いがあったからこそだと力強く仰っていました。奥様ともその間に会われたそうです。その後、元々石材加工の工場長を勤められていたお父様の手伝いを経て正社員となり、会社の設立に至りました。

青年部への入会は平成13年。当時2週間に1度近所の仲間内でBBQをやっていた中に元青年部メンバーの野末さんがいらっしやって、お誘いを受け入会しました。入会の決意は一言でいうとお酒の勢いだそうです。

そんな繊細なお仕事内容とは対照的にお人柄は豪放磊落な伴さん、青年部活動の中で一番思い出に残っていることの質問には「みこしだね！」と即答。平成15年の五万石みこしでは担当委員会として携わり、後にも先にもない最優秀賞を受賞しました。しかしそこに至るまでの道のりは平坦ではなく、みこし2基を5、6名で夜中の2時まで掛けて作成したり、コラボした愛産大に何度も足を運んでは打ち合わせをしたりと、苦勞の連続だったとのこと。ただ本番をやり終えた後の安堵感、達成感、掛け替えのない大きなもので今も強く心に残っており、最終的に委員会の団結力も今まで以上に深まったと当時を振り返りながら誇らしく話してくれました。ただ、賞金の6万円はどこに消えたのかなあ？親会？行方不明？とも笑いながら首をかしげて仰っていました。

今の趣味は一人でお酒を飲みに出かけること、自宅のトイレお風呂掃除だそうです。ゴルフもやるけど、人と接するのが大好きという伴さん。プレイそちのけで喋ることに夢中になってしまうからダメだと、完璧主義な一面も垣間見ることが出来ました。

最後に伴さんにとって青年部とはどういう場所かと尋ねたところ、「やって良かったなあ、横のつながり、仕事よりもだね、他では得られない貴重なつながりを沢山作ることができた」そうしみじみ語ってくれました。また「大人になるとなかなか恥を掛ける場所がないが、青年部はそれが出来る。勉強をさせてくれる」と我々後輩に向けたメッセージも伝えてくださいました。

取材を通じて人と人が繋がる大切さ、青年部の一員として活動していく意味を改めて伴さんに教えていただいた気がします。ありがとうございました。



取材担当/  
広報委員会  
谷口純典、辻村謙介、  
鈴木潤、香村経文、  
照井彬等、神尾尚宏  
平岩哲朗、加藤静真